

第52回横浜市都市美対策審議会景観審査部会会議録	
議 題	審議事項 議事1 広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業における景観形成について（審議） 議事2 その他
日 時	令和元年8月5日（月）午後8時00分から午後8時48分まで
開催場所	一般社団法人横浜みなとみらい21プレゼンテーションルーム
出席委員	国吉直行、岡部祥司、真田純子、関 和明、野原 卓
欠席委員	加茂紀和子、矢澤夏子
出席した書記	堀田和宏（都市整備局企画部長） 嶋田 稔（都市整備局地域まちづくり部長） 梶山祐実（都市整備局企画部都市デザイン室長） 鴫田 傑（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関係者	【議事1】 関係局：光田麻乃（都市整備局企画部企画課担当課長） 松中 渉（都市整備局企画部企画課担当係長） 事業者：エムシードゥコー株式会社
開催形態	公開（傍聴者：なし）
決定事項	【議事1】 ポスター広告とデジタル広告を現地で確認したところ、景観へ与える影響に大きな差異はないことがわかった。設置場所、コンテンツ、色、明るさなど、不快感を与えないような工夫については引き続き検討するとともに、今後、個別の配置を検討していく中で、景観審査部会にも付議しながら進めていくこと。
議 事	議事1 広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業における景観形成について（審議） 資料を用いて、事務局及び関係局から説明を行った。 （国吉部会長） ありがとうございました。いずれにしても、この静止画デジタル広告を使った場合にどういった影響があるか、その辺を皆さんに確認していただきたいということだったと思います。事務局からいろいろ説明がありましたが、率直にそれぞれの委員の先生方の感想をお聞かせいただければと思います。どなたからでもよろしいですが、いかがですか。では、関委員。 （関委員） 感想は幾つかあります。ポスター式とデジタル式の違いについてです。デジタル広告は交差点の対岸、遠くから見たということで、切り替わっているのはもちろんわかるし、事前に同じものを歩道上のバス停で近くから見ていたのでわかるのですが、これはコンテンツの問題かもしれませんが、内容については正直言ってほとんどわからなかったです。広告は4種類ありましたが、全然見えませんでした。あの場所にあると、デジタル広告は車道側からしか見えず、コンテンツの問題と考えると見えなくてもいいのかもしれないですが、そのようなことを直感で感じました。 あとは、昼と夜。夜、内照式の地図を見ました。最初は広告のポスターが張っており、それを地図に替えてもらったのですが、張り替え作業を見ていると、ポスターのプリントのカラーは、これは当然だと思うのですが、内照式にすると全然色が違っていました。昼の色と夜の色の見え方が変わってしまうというのは致し方ないのかもしれませんが、多分色はエリアごとに規定があると思うので、その点デザイナーの人はどういう色の選択をすればよいのか。特に今回見た中では濃いブルーがかなり飛んでしまいハレーションを起こしていたと感じました。とりあえず2点、気がついたところの感想です。 （国吉部会長） 岡部委員。 （岡部委員） ありがとうございます。3つ（既存バス停上屋の広告、広告付案内サインの内照式ポスター広告、同デジタル広告）の見え方は当然違っていましたが、個人的な感覚としては許容範囲というか、ああいう感じなんだらうなという気がしました。あと1点、1時間くらい見ていて、あれを見ている人が

ほとんどいないという感じがしていたので、インタラクティブというか、そのもの自体を見てもらえるようにするというのが結構大事なのではないかなど。これはちょっとまた議題とは別の話になるので、意見です。

(国吉部会長)

ありがとうございました。では、野原委員。

(野原委員)

3点ほどあります。

まずその前に、今回、ポスター対デジタルという形になっている中で言うと、もちろん自動調整して明るさが調整されていることも多分あって、デジタルが大丈夫ですかという確認だけだと思えば、デジタルだから非常に悪い影響があったわけではないと思います。ただ、それを踏まえて全般的にどうか、考え方としてどうすべきかということについて3点あります。

1点目は、やはり位置です。どこに置くかがかなり重要であると、今回確認して改めて感じました。今回確認した場所についても、既存の案内サインは横断歩道のすぐ脇にあって、まさに移動する中で脇を見ながら、斜めに見ればちゃんと道も見えたのですが、新しく設置したものは道の真正面の一番手前のところであって、普通行かない場所というか、歩行者としてはそこに訪れることはないの、遠目から見ると目立ったりする位置に置いてあって、しかしながら、クイーンズスクエアの中から出てくると、案内サインとして見るので多分近づくはずで、近づかないと地図が見えないので、そういう意味である位置で本当にいいのかなというのを疑問に思ったところがあります。結果、地図を見ていると前にある道も見えませんでした。そのように考えたときに、「広告付案内サイン」なので、案内サインとして本当にちゃんと機能しているか、使う人にとって使いやすい状態になっているかというのは忘れてはいけないのではないかなと思うのです。それが、要は広告を見るところの視点場の距離感と、地図を見る人の距離感が全然違うような気がするの、それに対して大丈夫か大丈夫じゃないかという確認をまずしなければいけないのではないかなという意味で、トータルでどこの位置に置くかというのがかなり重要になってくるのではないかなと思ったというのが1点目です。

2点目ですが、周辺の色温度との関係みたいなものがかかなり影響する気がしています。今回はみなとみらいだったのですが、みなとみらいでも周辺の建物の1階部分の内側は真っ白ではなく若干色温度が低めに設定してあるような気がしたのですけれども、それらとの関係で広告付案内サインの光が浮き立っていました。周りの色温度がより低くなると、白色LEDというか、色温度が非常に高めの光はかなり目立つという感じがしました。ただ、先ほどの関委員のお話でもありましたが、結局足し算で、もとのポスターのプリントのカラーが透過の光との関係で変わってしまうので、後ろの色温度を変えてしまうと結果として足し算した色も変わってしまうとか、いろいろ考えると難しいことがあるなと思いました。ただ、周辺との関係でどうするかというのを考えなければいけないなという意味で、どの場所においても同じというわけではなくて、周りがどうなっているかということが結構影響してしまうなと思いました。

3点目は、これはバス停を見ていて思ったのですが、本当はバス停名がちゃんと光るといいなと思いました。広告板面は光る一方バス停の名前は光らないので、何のバス停かわからなかったのです。それに対して、例えば新横浜で、F・マリノス通りは「F・マリノス通り」というのが上に出ていると思うのですが、通り名が広告上部に表示されるとか、そういうのがあると案内サインに限らず位置が非常にわかりやすくなるのです。これはデジタルや内照式のポスターなど、取り替えられるものだからこそ、もしその場所の名前が変わってもすぐ対応できるとか、いろいろ柔軟に行えることなのではないかなと思いました。今後その辺も工夫することで、より公共性を持った広告付案内サインにすることもできるのではないかなと思いました。その辺の検討もしていただきたいと思いました。

(国吉部会長)

ありがとうございました。真田委員、お願いします。

(真田委員)

私もポスタータイプとデジタルタイプで大きく違いがあるかと言われると、違うことは違うけれども、景観に対する影響という点で見たときにはどちらでもいいという感じはしました。幾つかあるのですが、広告という観点から見ると、先ほど見たクイーンズスクエアの前のところは非常に交差点が大きいので、全然内容は見えない。内容は見えない割に板面が大きくて景観を阻害しているということが気にはなりました。先ほど野原委員も言われましたが、せっかくピスタが通っているような道路がつくってあるのに、その道路の正面にあって、写真を撮ろうと思うと車道まで出ないとピスタが通った写真が撮れないというような状況になっていて非常にもったいないのです。大まかな設置場所は

先に決めるのでしょうか、その中で細かい場所については、今後は現場で周囲を確認しながら取りつけるべきなのかなと思いました。

あと、広告の内容についてです。これはもう既に別の委員会で確認されていることだと思うのですが、私が思っていたよりも広告がいわゆる広告だったと感じました。もうちょっと都市景観になじむというか、富山のLRTみたいな感じのやつかなと思っていたら結構商品が前面に出ているような感じだったので、もうちょっと何とかならないのかなとは思いました。

あと、地図の面に関して言うと、先ほど現場でも言ったのですが、地図を見るとときは地図の板面を触りながら自分の位置を確認する人が結構多いので、そういうことをするにはちょっと位置が高過ぎるので見にくいとは思いました。あと、明る過ぎて文字をしっかりと読んでいると目が疲れるというのがあるので、もう少し照度を落としてもいいのかなと思いました。

あと、全体的に非常に大きくて、今回はみなとみらいのような街区が大きくて建物も大きいところで見ましたが、それでもちょっと大きいなという感じがあったので、もう少し街区が小さくて建物も小さいようなところで見ると、もっと存在感があるのではないかなと思いました。

あと、この地域自体が比較的近年に一気につくられたようなところなので、こういう感じのものも合うのかもしれませんが、日本大通りとかそういうところで本当にこのタイプが合うのかと言われると相当厳しいのではないかなと思いました。

(国吉部会長)

ありがとうございました。いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。私も現場を見てまいりました。配置の問題など、本日の議題とするもの以外についても各委員からご指摘があって、その辺は今後必ず議論しなければならないと感じました。

あとサイズについて、真田委員から、みなとみらいはぎりぎりあの大きさでいいかもしれないけれども、小さく街路の狭い地区にあの大きさのものを持っていったときに大丈夫か不安があるという意見があり、それもそうかなと感じました。

光についての感じ方ですが、私はやはりビジュアルの内容によって、光そのものとして感じてしまう場合もあると思いました。ビジュアルよりも光を強く感じるようなものもあって、特に白色系は気をつけないとまずいなと感じました。通常のポスターで表現する白色は、内照式だとしてもフィルターを通した光ですから、本当の白色光ではないわけですよ。けれども、デジタルの白色は本当に蛍光灯の光になるので、その辺はやはり何か取り決めて、白系の色はこれ以上明るいものはやめるとか、そういう数値目標をつくっておいたほうがいいのか。照度を落とすのではなくて、もともとの素材について純白やそれに近いようなものを一切避けるような工夫をして、明度を少し落とすこと等によって安定感やなじみを持たせるというようなことです。それから、同じように地図面でもやはりそういうことが言えるのかなと思いました。紙の通常のポスターは暗く、明るいほうがわかりやすいという面はある一方、真田委員がおっしゃったようにまぶしく感じてしまい、長時間じっと目で追いかけることが難しいところもあって、その辺も照度を落とせばいいのか、それかもう少しベースの色味を工夫すればいいのか、まぶしさを下げつつちゃんと視認性を得られる方法があるのではないかなと感じました。その辺が大きかったと思います。地図面と広告について、それぞれ以上のように感じました。ですから、今後その辺を実際にどういうふうに工夫していくかで展開が変わってくるかなと感じました。全くだめという感じではなかったのですが、その辺の工夫をしないと見えにくいといえますか、地図としての役割も果たさないのではないかなと感じました。

それから、対岸からしか見えないような車道側のポスターで、ビジュアル広告として大丈夫かとは思いました。30度ぐらいとか、ちょっと斜めにするような工夫はないのか、それでも余り効果がないのかわかりませんが、その辺が気になったところです。

今まで申し上げたことについて、関係課から何かコメントはございますか。

(企画課)

ご意見、本当にありがとうございました。たくさんのご意見をいただきまして、まず位置に関しては、横浜市の事業課とエムシードウコー社と警察ですとか土木事務所と一個一個立ち会っていく中で、どうしても横断歩道からの距離などに目が行きがちでした。ビスタなどに対する工夫というのも、グランモール公園などはエリア担当課との協議の中で、この見通し景観についてはここから中には入れないでくださいと明確に指導をいただく場合もあるのですが、本日のような道路はそういった道路ではなかったの、なかなかそういう視点が欠けていたかと思えます。今後、参考にさせていただきたいと思えます。

筐体のサイズ感につきましては、統一したデザインということで都市美にもうお諮りしているとお

り、市内のものは全て同じサイズです。目印として、初めて来た方があの案内サインがあるところに行けばWi-Fiが使えるんだ、地図が見られるんだというような、認識をしやすいものとして統一した大きさにしているのですが、やはり横浜は街区が大きいところも小さいところも確かにございますので、そのところはせめぎ合いがあると思います。なので、筐体の置き方や位置を工夫することによって、巨体感を何とか緩和できるような視点も必要だと思いました。

あと、広告そのものにつきましては、白系はデジタルだと特に目立ってきますが、それはコンテンツの審査の体制をとっていますので、その中で横浜市でも考えていきたいと思っています。

あと、地図につきましては、夜と昼で色が違うということでもなかなか悩ましいのですが、こちらも都市デザイン室と共に、印刷の濃さを少し変えられるのか、どの時間帯に合わせて印刷をしていくのかということも今後研究をしていくべき内容かと思いました。ありがとうございます。

(国吉部会長)

コンテンツの問題につきましては別の委員会にて比較的厳しく審査しておりまして、工夫をお願いしたり、広告の表示率は一定以下にしたり、ということもあるのですが、それが合っていればいいだけではなくて、週刊誌のページがそのまま出てきたようなものとか、文字だらけだとか細かい値段がいっぱい張りつけてあるとか、そういうのは極力避けてくださいということで、ドゥコー社さんは全国で展開しているのですけれども、多分横浜が一番厳しく審査していると思います。そこまで言うとスポンサーが逃げてしまうというようなこともあるのですが、それをあえて承知の上で委員会から申し入れています。真田委員は、富山を相当評価されているようですけれども、富山もドゥコー社が同じようにやっていますよね。できるだけシンプルにということに努めて、そちらも外部の委員会で審査してもらっていると考えています。

問題提起がたくさんあったのですが、やはり一番大きいのは過度な光ということで、本来の目的は道案内をするなど利便性を高めることであり、夜間の照明効果を高めるということではないので、その辺のことを考えるとまだ照度の問題とかコンテンツにおける色の使い方とか、それが今までのものとは違う、デジタルで使う場合の表現の仕方は工夫したほうが良いと感じましたので、その辺を事業者として工夫していくという考えをちゃんと示してもらいたいと思います。

それから、実験的に置いたものを一部関内地区などでも運用していくかどうかという場合は、再度関内地区で今のもの、あるいは一回り小さいものを置いて確認するというようなことも必要かと思えます。サイズについては確かに全部統一したほうが便利でしょうけれども、せっかく維持してきた街の個性がそれで均一化されていくというのは逆にまずいところがあります。サインとかそういうものの均一感を持ちつつも地域の個性を大事にするというのも横浜で重要視すべきことなので、それを極力工夫していくということも念頭に置いて展開していくべきではないかと思いました。

個別の配置などについても再度ご意見が出ましたので、配置していく中で今後また横浜市の関係課、あるいは場合によっては専門部会に報告なり相談して進めていってほしいと思います。ということで、皆さんの意見を尊重しながら展開していただくということでいかがでしょうか。

(真田委員)

大きさについてです。他の場所への設置を考えたときに、今回は既に施工したものを確認したので、それは照度とかそういうものを見るためなので仕方ないのですが、大きさについては施工しなくても、例えば現物大のモックアップを大小用意するとか、そこまで精巧なものではないにしても段ボールでその大きさを再現したものを現場に置いて確認することはできると思えますので、施工する前に大きさの確認をできるようにしたいのではないかと思います。

あともう一つ、景観という話ではないのかもしれないのですが、せっかく電源やWi-Fiをつけているのですけれども、本日拝見したようなところがあると、充電している間ずっと立っているのかなというのはすごく気になりました。確かにメール1本送るとかだったらいいのかもしれないのですが、もうちょっと長時間になることを考えると、ここだったらガードレールのところに座ってしまうとかいうことも起こり得るのではないかと思います。せっかく電源をつけたりするのであれば、ベンチなども同時に施工していくとより人にやさしい街になるのではないかと思います。最近、お金を払わないと座れない街というのが増えてきた中で、観光客や人のためにベンチを置きましょうというスローシティーなどの流れもあるので、せっかく電源をつけたならそういうのもセットで、置ける場所と置けない場所があるとは思いますが、可能な限り置いていったらどうかと思いました。

(国吉部会長)

ありがとうございます。それに関して言いますと、本日のような場所であれば歩車道の境に置く以外に、公開空地がありますから、公開空地の一部に、真田委員がおっしゃったようなゆっくりと休憩

ができる最低限のもの（ベンチなど）とセットで置かせていただくとか、全部は難しいかもしれないですが、そういう場所もところどころあるということで、「あそこに行けばゆったりできる」というような、広場づくりなどとセットで考えると、そういうものを進めてはどうかと感じました。公開空地はそういうことで、パブリックな用途に使ってもいいわけですから、バス停ですとバスのとまるところでなければだめなのですが、こういった地図板とかそういうものは必ずしも道路上になくてもいいということではないかなと思いました。そうすると、広告物も近くで見られるとか、そういうのも一つのアイデアとして検討の価値があるのではないかと思いましたので、つけ加えさせてください。

ほかの委員のご意見は、どうぞ。

（関委員）

幾つか質問をしたいのですが、ここに出てくる照度の自動調整はどういう調整ですか。何が自動なのか、自動調整されているのだとは思いますが、どういう調整の仕方なのか、どういうプログラムを組まれているのか教えてください。

（エムシードゥコー株式会社）

今は設置したばかりで、技術者といろいろと調整している段階です。一応センサーが感知をしているのですが、現状ではそのセンサーがただ明るさを調整するというだけの設定になっています。その明るさ自体が、例えば、先ほどお話があったように、まぶし過ぎないように、多少パーセンテージで上げ下げしていくというような形の調整になるのですが、本日いただいたご意見と、加えてこれからアンケート調査もさせていただきますので、全体的な意見をお聞きした上で、また事業課と相談させていただこうかと思っております。

（関委員）

昼と夜で周りの環境が違うのをセンサーが感知して、絶対的な照度ではなくて、相対的に周りのデータに基づいて変えるということですね。

（エムシードゥコー株式会社）

そうです。

（関委員）

本日は夜に見たのですが、逆に言うと、昼はどうなりますか。昼、周りが明るいと見えなくなる可能性があるかと思うのですが。最近はどうでもないですか。今回は夜見たからデジタルの広告がくっきりと、明る過ぎるくらいに見えたのですけれども、その辺についてはどういうやり方なのか。

（エムシードゥコー株式会社）

まず、夜のお話に関しましては、例えば周りが暗い場合にはもう少し暗くなる形です。今、ここは比較的周りが明るいので、それに合わせてなじむような形で調整はさせていただいております。昼に関しましては、例えば極端な話なのですが、夏の強い西日が当たっても視認できるぐらいのものではないと見えにくいという部分もありますので、その辺の能力は出るようなパネルを実際に今回は運用しております。周りの明るさを感知して、視認できるぐらいの明るさには自動的に調整させていただく形になります。

（関委員）

あと2つあります。従来のスクロール式のものとは1基につき広告の種類が2つですよ。デジタルになると、今回4種類の広告が表示されていましたが、その数というのは無限に増やせるのですか。今後のことですが、どうなのですか。

（エムシードゥコー株式会社）

広告については、先ほど審査のお話もありましたが、今のところ横浜市内のバス停と同一の販売手法を想定しております。そうすると、現在は横浜市内のバス停で最大で8面の広告が付きまますので、同じようなコンテンツが入るような形で考えていきたいと思っております。

（関委員）

1つの画面で8種類切り替わるということですね。

最後ですが、今、静止画デジタル広告と書いてありますが、将来動画になる可能性もあるのですか。すみません、フライングの質問かもしれませんが。

（企画課）

今回の事業に関しましては、あくまでも静止画かつ10秒で切り替えということで、そちらは変えません。

（関委員）

技術的には、将来動画になる可能性はありますか。

(企画課)

技術的には可能です。

(関委員)

わかりました。以上です。ありがとうございます。

(国吉部会長)

完全な動画になるということになると、制度上、根本的に問題があるので、そこでスムーズに移行することはあり得ないと思います。あくまでも静止面を幾つか組み合わせた、静止面の延長であるということで運用することになっていると認識しております。よろしくお願ひします。

ほかのご意見はございますか。それでは、本日見ていただきまして、感想をお聞かせいただきました。多少こういう工夫をすべきだということが幾つかありました。照度の問題。私も申し上げました、素材そのもの、コンテンツのクオリティを高くしてくださいというもの。コンテンツで用いる色も重要であり、それによって見え方、落ちつきが違ってくるということ。場所によって背景の状況に合わせてセンサーで対応するような工夫をするということもありましたので、周囲が非常に暗い場所では少ない光でも視認性は保持されるわけで、そこで逆にまぶし過ぎるとかえって見にくいということがあります。あくまでも、まぶし過ぎて不快感を与えるようなことにならないための工夫を、周囲の状況によって調整していくということで進めていただきたいと思います。

あと、新横浜やみなとみらい地区のような大街区のところと違った小さい街区のところ運用するときこのままでいいかというのは、大きさ等にも不安があるので、それもモックアップみたいなものをつくってどこかで一度見せてもらうなど、確認しながら進めるべきではないかというご意見もありましたので、今後、もし進めるのであればなるべくそういうこともお願いしたいと思っています。

(関委員)

すみません、一つ。

(国吉部会長)

どうぞ。

(関委員)

切り替えサイクルが10秒という、このタイミングもセッティングは変えられますか。

(エムシードゥコー株式会社)

技術的には可能です。

(関委員)

わかりました。そうすると、非常に短いサイクルで替わっていいところと、少し落ちついた長めのサイクルで替わるところと、場所によって変えるということもあるのかなと思いました。あまり目まぐるしいのも避けたいという、その辺は技術的には可能ではあるわけですね。わかりました。

(国吉部会長)

現在のスクロールのタイムスパンと同じ設定で今回はセットしてもらいまして、当面、あまり慌ただしくない状況で運用してもらいたいと思います。サイクルを変える場合などはまた議論をしていただきたいと思っています。

それでは、本日伺った内容等を含めて工夫して進めていただきたいと思います。

(鵜田書記)

ご議論いただきまして、ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえまして、今回は一台一台その場で検証しながら設置しなさいという宿題はもともといただいておりますので、今後も見え方ですとか、あるいは今回特にデジタルについてはまぶしさ等につきまして、一個一個検証しながら設置を進めたいと思います。また必要に応じてご報告いたしたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

これで議事1が終了となります。

議事2 その他

なし

閉会

	<p>(鵜田書記)</p> <p>本日の議事録については、横浜市都市美対策審議会運営要領に「審議会があらかじめ指名した者の確認を得ることとすることができる」とありますので、作成後部会長に確認を頂いたうえで、公開いたします。これもちまして、第52回都市美対策審議会景観審査部会を終了いたします。ありがとうございました。</p>
資 料	<p>・次第、参加者名簿、座席表、第51回議事録</p> <p>【議事1】</p> <p>・資料1：広告付案内サイン・公衆無線LAN整備事業における静止画デジタル広告活用について</p>
特記事項	<p>次回の景観審査部会の日程は、8月26日（月）横浜市都市美対策審議会の後開催予定。</p>